



説教要旨 「喜びの発露」

ルカによる福音書10章38～42節

ここにはマルタとマリアという姉妹が登場し、二人の姿が対照的に描かれています。イエス様を家に迎え入れたその家で、マルタはホストとしてイエス様と弟子たちをもてなし、マリアはイエス様の足もとに座って、その話に聞き入っていたのです。マルタは働かないマリアに不満を抱き、イエス様に「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」。(40節)と不平を言うのです。このマルタに対して、イエス様は答えられました。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」。(41、42節)

イエス様はここで、マルタの行っている奉仕を、意味がないとか、必要がないなどと言っておられるのではありません。この時のマルタが失ってしまっている、マルタに今一番必要なことを伝えようとしておられるのです。

この時のマルタに一番必要なこと。それが、このマリアのように、イエス様の足もとに座って、そのみ言葉に聞き入ることです。イエス様のみ言葉に聞き入ることを失ってしまったならば、私たちの奉仕は、自己実現だったり、自己主張のための働きになってしまいます。そこに評価や見返りを求める思いが生じてくるのです。そうなってしまったら喜んで奉仕などできなくなります。そして自分の奉仕を喜べないところでは、自分と他者の働きを見比べ、不公平を感じ、人を非難する思いに支配されてしまうのです。

イエス様がマルタに望んでおられるのは、マルタが心乱れ、喜びを失った中で、人を非難するような思いを抱きつつ働くのではなく、彼女の行っている奉仕が本当に生かされ、喜びをもってなされていくことです。

イエス様によって実現する神の国、神様の恵みの支配を告げるみ言葉に聞き入る時にこそ、私たちは主のみ業のために用いられている喜びに満たされて、神様への奉仕に生きることができるのです。



(2019・4・28 説教者：稲垣真実)